

# お盆明け活動再開5日間で416人がボランティアに参加

救援物資の配布、地域の泥出し・瓦礫の撤去をすすめる

## 救援物資とどける



三浦市議を先頭に市内各地で全国から届けられた救援物資の配布を行っています。

どの地域でも「こんなことをしてくれるのは共産党だけ」という声が聞こえます。

19日には宮城県水産高校グラウンド仮設住宅と県営渡波仮設住宅で、20日にはトウモロコビ

ジネスタウン仮設住宅で、21日には雨のなか中浦のヨークベニマル駐車場で救援物資の配布活動を行いました。

北海道から沖縄まで日本全国の青年が参加している全国青年ボランティアや東京、千葉、神奈川県、奈川の日本共産党の議員団、後援会が参加しています。

た神奈川県横浜市の白井市議は「物資のお届けと聞くと力仕事を連想していたが、これならば女性でも無理なく参加できる。帰ったら広く参加を呼びかけた



かき氷の配布

い」と語っていました。

20日には東京の青年ボランティアがかき氷機を持参して参加。約200食をふるまいました。

かき氷チームのリーダーは「小さな子からお年寄りまで、みんなが喜んでくれて本当によかった」と語りました。

また、この日は茨城県つくば市から保育士2名が参加し、子どもたちに紙芝居の読み聞かせも行い、たくさんの子どもたちが夢中で話に聞き入っていました。

2人は「使う紙芝居を選ぶときに山や

川など震災を連想するようなものを避けながら、昔から受け継がれている昔話やイソップ童話を上演しました」と話してくれました。



紙芝居の読み聞かせの様子

21日のヨークベニマルでは青年たちが配布を待つ列にスイカを切って提供。そして、前日同様につくば市の保育士が親が物資配布を受けている間に子どもたちを預かり、紙芝



スイカを受け取る子ども

居の読み聞かせを行いました。

この日はマッサージ師も駆けつけており、住民の日ごろ疲れを癒していました。



マッサージを行っている様子



# 市内の清掃作業続く



谷川仮設住宅で住民の声を聞き取る千葉県の小松県議



渡波仮設住宅で物資配布を行う神奈川県横浜市の白井市議と大貫市議



門脇で清掃活動をする千葉県流山市の小田桐市議

各地の日本共産党議員も被災地で積極的に活動



石巻対連が行っている市内の清掃活動に全国青年ボランティアと、東京、千葉の日本共産党議員団、後援会が参加し、17日のお盆明けからでも200人以上が活動を行っています。お盆前から泥出し、瓦礫の撤去を行っている西光寺の住職さんからは「共産党が頼り。檀家の方々も非常に喜んで」と語っていました。通りすがの方々も「ありがとうございます」と声をかけてくれます。これまで1200人を超えるボランティアを投入して作業をすすめています。被害規模が大きく、清掃が終わるまでにはまだ時間が必要です。

## 雨がこない

仮設住宅の中には雨がこない住宅があり、雨が降ると直接屋根から水が落ちてきて、とても大変との声。

日本共産党の市議団は雨どい設置のたけに行政への働きかけを行います。私たちはこれまでも要求の多かった仮設住宅への網戸設置を実現しています。



宮水グラウンド跡地で現地調査をする三浦市議